



■ 図 16-23 ■ 直接法を用いたシリコーンゴム系軟質裏装材によるリライン

- ④ 口腔内より義歯を取り出し、余剰のシリコーンゴム系軟質裏装材を除去し辺縁形態を修正する(図 16-23-c)。
- ⑤ 研磨を行う(図 16-23-d)。

2 間接法

現在使用中の義歯床をトレーとしてダイナミック印象を行い、顎堤粘膜の印象採得および咬合採得を行ったあと、フラスコ埋没による方法、あるいはリライニングジグによる方法によりリラインを行う。

(1) フラスコ埋没による方法

- ① ダイナミック印象材を用いて義歯粘膜面の機能印象を行い、ボクシングを行う(図 16-24-a, b)。次いで、模型材を注入して作業模型を製作する(図 16-24-c)。
- ② 作業用模型をフラスコ下部に埋没し、義歯のアンダーカット部をシリコーンゴム印象材パテタイプで覆い、その後、埋没操作を行う。石膏の硬化後、フラスコを分離し義歯を取り出す(図 16-24-d)。
- ③ 印象材を除去し、義歯床粘膜面を一層削除してレジンの新鮮面を露出させ、義歯をフラスコ上部に戻す(図 16-24-e)。
- ④ 模型に分離材を塗布後(図 16-24-f)、シリコーンゴム系軟質裏装材を盛り上げる(図 16-24-g)。フラスコをクランプで固定し、硬化後、余剰裏装材を除去する。
- ⑤ 形態修正後、研磨する。



■ 図 16-24 ■ フラスコ埋没によるシリコーンゴム系軟質裏装材によるリライン

(2) リライニングジグによる方法

- ① フラスコ埋没による方法と同様に、ダイナミック印象材による機能印象後、印象面に模型材を注入して作業模型を製作する。
- ② リライニングジグを上部和下部に分離し、作業模型をジグ上部に装着する(図 16-25-a, b)。
- ③ リライニングジグの下部に石膏を盛り上げ、義歯の咬合面を圧接し、咬合面コアを製作する(図 16-25-c)。
- ④ リライニングジグより義歯を取り出し(図 16-25-d)、軟質裏装材の厚さを確保するために義歯床内面を一層削除してレジンの新鮮面を露出させる。
- ⑤ 模型に分離材、義歯床内面に接着材を塗布し、シリコーンゴム系軟質裏装材を模型ならびに義歯床内面に盛り、ジグ上部と下部を固定する(図 16-25-e)。
- ⑥ 重合後、義歯を取り出し、形態修正ならびに研磨を行う。